

会 議 録

会議名	平成 29 年度第 1 回 八王子市市史編さん審議会	
日 時	平成 29 年 6 月 24 日（土）午前 9 時 30 分～午前 11 時 10 分	
場 所	八王子駅南口総合事務所 会議室（サザンスカイトワー八王子 4 階）	
出席者氏名	委 員	松尾正人会長、相原悦夫副会長、池上裕子委員、井上晶宏委員、 上田幸夫委員、落合 隆委員、岸本弘子委員、前田成東委員、 光石知恵子委員
	理事者	
	事務局	布袋孝一市史編さん室長、長谷部晃一市史編さん室主査、 秋山和英市史編さん室主査
欠席者氏名		
議 題	【審議事項】 1. 『新八王子市史』編さん事業についての報告 2. 刊行物・編さん事業についての意見交換 3. その他	
公開・非公開 の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	1. 平成 29 年度市史編さん事業の組織体制（平成 29 年 6 月現在） 2. 市史編さん事業における刊行物刊行実績	

会議の内容

1. 開会

【松尾会長】平成29年度第1回八王子市市史編さん審議会を開催する。委員の出席状況だが、9名全員の出席があり、審議会は成立している。また、傍聴については現在のところないが、希望があった場合はその時点に対応する。会議録の署名は、上田委員にお願いする。

2. 『新八王子市史』編さん事業について

【松尾会長】事務局から報告をお願いする。

【秋山主査】資料に基づき報告する。資料1・平成29年度の組織体制について。平成29年度は、市史編さん事業計画の最終年度にあたり、事業が収束することから、人員が減員となっている。主幹職が減となり、室長がその職を兼務する。また、専門管理官も廃止となり、一般職員についても、主査職1名が減員となっている。

専門員についても事業の収束に鑑み、2名の減員となっている。そのうちの1名については、これまでの編さん事業で培ってきたスキルや知識を活用し、将来の資料活用を見据えて、文化財課（郷土資料館）にて改めて任用をしている。市史編さん室と文化財課の円滑な引き継ぎを実現するための重要な役割を担っている。

平成29年度は、この10年間の編さん期間で収集してきた膨大な資料を整理することが目標となるが、この目標の実現のため、規模は縮小したが、引き続き専門部会を設置している。

次に、資料2・刊行物の刊行実績について。計画どおり、平成28年度までにすべての刊行物の編集を完了している。この6月20日からは、通史編3近世（上）と通史編6近現代（下）の販売を開始した。7月からは、通史編4近世（下）と民俗編を予定している。

報告は以上だ。

【松尾会長】質問等はあるか。

【相原副会長】10年間、本当にあつという間であった。これだけの膨大な資料を扱うのは、ほかの自治体と比較してもまれであり、大変な苦労であったと思う。市民からも高い評価を得ているのではないか。他地域でも、編さん事業に数多く着手しており、資料の利活用からしてもタイミングが良かった。この10年間の取り組みが、将来の100年に役立つものと確信している。

【上田委員】集会所の建て直しがあった時の話。集会所近くに水神様の石塔があり、この石塔がどこから運ばれてきたのかと話題になったが、資料調査をすると、それは、浅川の堤防から持ってきたことがわかった。歴史に興味をもつきっかけとなったが、この『新八王子市史』にもそういった利用価値が出てくるのではないだろうか。

【落合委員】膨大な資料の保管場所や活用方法について、現在の検討状況を知りたい。

【布袋室長】現在の保管場所である旧稲荷山小学校は、もうすでに収集資料でいっぱいだ。新郷土資料館の建設に絡めて、文化財課へ引き継ぐ予定だが、新郷土資料館にすべての資料を保管するスペースの確保は困難なため、少なからずこの旧稲荷山小学校に資料が残り、バックヤード的な役割を担うこととなる。また、あわせて、資料の公開も実施する予定だが、内容精査や公開承諾手続きなど、しっかり対応していきたい。

【前田委員】事業の収束に伴い、旧稲荷山小学校からは職員もいなくなると考えられるが、そのような状況下での資料保存について、何か検討しているのか。

【布袋室長】人員については、現在いろいろな角度からかかわっている嘱託員の活用を検討したい。また、施設面についても、空調や防火設備を含めた建物補強を充実させていきたい。

【光石委員】新郷土資料館はどのような施設になるのか。

【布袋室長】人でにぎわう歴史ミュージアムのような構想だ。すべての資料が揃っていて、そこに行けば、すべてが完結するような機能を持たせることは難しい。

【光石委員】資料活用の観点からすると、どんなに人材が素晴らしくとも、資料が点在しているようでは意味がない。利用者である一般市民が使いやすい場所と環境を提供して編さん事業を完結してほしい。旧稲荷山小学校は、資料活用の目的を考えるとベストではない。そもそも学校施設に、資料保管の役割を持たせることに無理がある。温湿度管理や防火設備の機能を新たに持たせるならば、新郷土資料館に資料保管庫を設置できないものか。

【長谷部主査】新郷土資料館については、別に検討会が存在している。市史編さん関係者も含まれており、編さん事業で収集してきた資料の今後の取り扱いについて、申し入れをいただいている。

【光石委員】資料は活用しないと意味がない。『新八王子市史』が完成し、また、新郷土資料館の話もあり、非常にいい機会だ。保管するだけでなく、ぜひ活用して欲しい。

【池上委員】新郷土資料館については、全体構想が見えてこない。公園や図書館、防災拠点など個々の機能を持たせようといった話はあるが、それぞれのスペースや活用方法など具体的な話はまだ進んでいない。資料館については、自主的な研究に対応できることは重要な機能であるが、同じ場所に資料を一括して保管・管理しておくことは難しい状況だ。

【光石委員】新郷土資料館に資料を集約できないものか。

【長谷部主査】編さん事業で収集してきた資料が、まったく新郷土資料館にいかないわけではないと考えている。必要なスペースはもちろん確保できるよう働きかけていきたい。ただし、スペースには限りがあるので、旧稲荷山小学校をバックヤードとして活用し、利用しやすい環境を整えていきたいと考えている。

【光石委員】補完施設としての旧稲荷山小学校のあり方についても考えて欲しい。

【松尾会長】収集してきた資料を、次にどう活用していくか。八王子は面積も広く、膨大な資料が収集されたが、これは大きな成果であり財産だ。この財産をどのように引き継いでいくか。八王子市として考えなければならない、大きな課題だ。

【前田委員】「市史研究」は現在休刊となっているが、今後の見通しを教えて欲しい。

【布袋室長】具体的に決定しているわけではないが、資料も含めて引き継ぎを予定している文化財課において、新しい形で刊行できるのではないかと考えている。

【相原副会長】「市史研究」は付帯刊行物でありながら、内容的には市史本編に匹敵するものだ。文化財課にも専門の職員が配置されており、形は変わると思うが、引き続き公表されていくのではないだろうか。

【松尾会長】市史編さん事業は時限的に行われ、そこには外部から様々な研究者たちが入ってくる。それゆえ、新たな資料がたくさん発掘される。これらの資料をどうするか。

【相原副会長】時間が経過すると、視点が変わってくる。今までの資料についても、別の角度から見直すこともある。資料はしっかりと保管しておかないといけない。

【松尾会長】資料もそうだが、市史編さんに関わった人たち、これらの人材も大切にしていきたい。

【光石委員】新郷土資料館については、そのような要素をしっかりと考慮して、土台作りをして欲しい。八王子市在住でなくても、論文の題材に八王子に関連する事柄を取り上げ、八王子の資料を探す人たちがいる。資料を有効に活用して欲しい。

【池上委員】市史編さん室が収集してきた資料、それに伴う調査・研究実績は、新郷土資料館が引き継ぐ予定だ。現在、新郷土資料館は開かれた施設をイメージして議論がなされている一方で、資料の保管、調査・研究も重要な機能として掲げている。この部分については、おそらく実現するのではないだろうか。また、多種多様な要望に対応できる人材の確保も大切だ。「市史研究」については、本編の刊行スケジュールとの兼ね合いで休刊となっていると思う。引き続き継続することも考えられるが、新郷土資料館における「紀要」といった形で研究発表の場が継承できるのではないか。公文書館の話については、継続さ

れずに立ち消えになってしまう。これは今後の課題と思う。

【落合委員】この編さん事業で刊行してきた31冊の書籍について、広く一般市民に周知して欲しい。また、販売状況について教えて欲しい。

【長谷部主査】販売については、書店の立地場所にも左右されているようだが、堅調に推移している。

【岸本委員】遺物・遺産などの文化財に対して、市民の理解や興味が向くようにして欲しい。観光マップとは違う歴史マップなどを作って、市民自ら歴史に興味を持てるような仕組みづくりをお願いしたい。

【長谷部主査】これまでは、書籍の刊行作業に重点を置いてきたが、ここで刊行作業は終了となる。今後は普及作業に力を入れていきたい。

3. 刊行物・編さん事業についての意見交換

【松尾会長】事務局から刊行物について、紹介をお願いします。

【長谷部主査】平成28年度に発行した刊行物について説明する。

「通史編3 近世 上巻」

上下巻で描く近世編は、主に江戸時代を対象とし、八王子城落城以降から幕末・維新期までで構成している。この上巻では、北条から徳川の支配へと変わりゆく時代の八王子、現在の八王子のまちの基礎となった甲州街道や八王子宿とそこで開かれたさまざまな市、八王子千人同心、村人と領主との関係やその変遷などを取りあげ、宿や村に暮らす人びとの姿を描いた。

①発行部数：1,500部 ②判型・頁数：A5判、719ページ ③販売価格：1冊3,000円

「通史編6 近現代 下巻」

昨年刊行した「通史編5 近現代 上巻」に続く下巻となる。本書では、戦中・戦後から現代へと、八王子市民が戦災を乗り越え復興を果たし、その後の町村合併を経た本市が、今の姿となり、中核市となるまでに発展してきた過程を描いた。

①発行部数：1,500部 ②判型・頁数：A5判、871ページ ③販売価格：1冊3,000円

「通史編4 近世 下巻」

あわせて刊行する「通史編3 近世 上巻」と一対になるもの。この下巻では、「桑都」と呼ばれるもととなった養蚕・製糸・織物業、自然を活かした林業などの諸生業、村人たちの暮らし、寺社と文化、幕末開港による社会変動などを取りあげ、人びとの生活を現在に伝えるよう、描いた。

①発行部数：1,500部 ②判型・頁数：A5判、915ページ ③販売価格：1冊3,000円

「民俗編」

市域に伝えられている民俗事象を捉え、その特質を明らかにするとともに、市民生活がどのように変容してきたかを叙述している。広い市域、多様な生活環境を持つ八王子において、日々の暮らしの中に伝承されてきた生活慣行を、聞き取りにより記録にとどめてある。

①発行部数：1,500部 ②判型・頁数：A4判、614ページ ③販売価格：1冊4,000円

頒布については、市内の小学校、中学校、高等学校及び大学、都内の公立図書館などに無償配付している。また、市役所市政資料室、八王子駅南口総合事務所、郷土資料館、市史編さん室で販売するとともに、八王子書店会の市内の3書店でも販売している。

【上田委員】「通史編6 近現代 下巻」について。学校教育の発展と充実の項がある。三十数年、小学校教師をやってきたので、懐かしく思いながら読んだ。よくまとっていると感心させられたが、用語の使い方が引っかけた。その用語を使わないと、読者に届かない場合があると思うが、当時、使用を禁止されていた用語が記述されているのが気になった。注釈でもあれば良いと思う。

【相原副会長】教育史を編さんした際に、学習指導要領を基本とした。用語については随分と配慮した。

【上田委員】教育に携わった者としては、少し抵抗があった。

【松尾会長】編さんをする上で、非常に難しい問題だ。聞き取った内容をそのまま表現すると問題があったり、変えてしまうと違うものになってしまったり。また、時代によっては評価が変わっていきたりすることもある。刊行物全体をとおして、何か意見など出ているか。

【長谷部主査】おおむね好意的に受け止められていると認識している。

【松尾会長】他の自治体からの問い合わせなどはどうか。

【長谷部主査】写真などの使用申請などを受け、提供している。

【光石委員】「写真民俗誌」はよくできている。あれだけの写真をよく集めたと思う。

【布袋室長】昨年の市議会で、刊行物に対する評価についての質問があった。北条氏康に関する書籍の中で、新八王子市史が紹介されており、このようなところでも、高い評価を得ていると答弁した。

【岸本委員】近現代を読んで、多摩ニュータウンのことがよくわかった。最初の赴任先が

松が谷方面の学校だったので、とても勉強になった。

【松尾会長】多摩市は早い段階で市史を作ったが、新八王子市史が先行していれば、多摩市史はもっと充実していたかもしれない。それほど八王子市史は影響があると思う。

4. その他

【布袋室長】平成 29 年度の取り組みについて。

①ビジョンフォーラムの開催について

市制 100 周年記念事業の一環として、歴史・伝統のテーマに沿ってフォーラムを開催する。平成 29 年 11 月 25 日（土）クリエイトホールにて開催する。基調講演、ワークショップ、パネルディスカッションといった構成だ。

②編さん事業の記録本の発行について

これまでの 10 年間の市史編さん事業の記録をまとめる。おおむね来年 2 月くらいの完成を目指したい。

平成 29 年度は編さん事業の最終年度にあたる。後世に伝えていくためにも、この 10 年間で収集してきた資料をしっかりと整理して、次に引き継ぎ、事業を終えたいと考えている。引き続きご協力いただきたい。

【相原副会長】これまでたくさんの貴重な意見・要望が出てきた。次につなげられるようにぜひ、反映してもらいたい。八王子市が、次の 100 年を見越して発展を遂げていくうえで、八王子市固有の歴史・伝統は大きな財産であり、守っていかなければならない。編さん事業の成果をここで留めておくのではなく、将来に向かって多面的に活用して欲しい。

【松尾会長】市史編さん事業というのは、老若男女問わず、みなさんの協力のもとに成り立っている。その成果物は市のステータスと成り得る。いい機会に恵まれたと思っている。

【布袋室長】これだけの大きな事業ができたことは、市民を含め、本当にみなさまのご協力のおかげと感謝している。中核市八王子にふさわしいボリュームと充実した内容のものが出来あがったと思う。この成果を後世に伝えられるよう、努力していきたい。

5. 閉会

【松尾会長】これで終了する。

平成29年 6月24日

会議録署名人 上 田 幸 夫